

新島襄の遺した言葉

小 枝 弘 和

奨励者紹介〔こえだ・ひろかず〕

同志社社史資料センター社史資料調査員

「わたしはこれらのことを、たとえを用いて話してきた。もはやたとえによらず、はっきり父について知らせる時が来る。その日には、あなたがたはわたしの名によって願うことになる。わたしがあなたがたのために父に願ってあげる、とは言わない。父御自身が、あなたがたを愛しておられるのである。あなたがたが、わたしを愛し、わたしが神のもとから出て来たことを信じたからである。わたしは父のもとから出て、世に来たが、今、世を去って、父のもとに行く。」弟子たちは言った。「今は、はっきりとお話しになり、少しもたとえを用いられません。あなたが何でもご存じて、だれもお尋ねする必要のないことが、今、分かりました。これによって、あなたが神のもとから来られたと、わたしたちは信じます。」イエスはお答えになった。「今ようやく、信じるようになったのか。だが、あなたがたが散らされて自分の家に帰ってしまい、わたしをひとりきりにする時が来る。いや、既に来ている。しかし、わたしはひとりではない。父が、共にいてくださるからだ。これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」

(ヨハネによる福音書 16章25—33節)

我已ニ世ニ勝テリ

ただいまご紹介をいただきました、同志社社史資料センター社史資料調査員の小枝弘和と申します。普段は同志社の歴史に関する資料の収集・整理・活用にかかわる業務を担当しております。本日はよろしく願いいたします。

先ほど聖書朗読の最後に「わたしは既に世に勝っている」という一文がございました。この言葉は、今から132年前の1886(明治19)年12月4日付で新島襄が書き残した説教稿のタイトルにあたる言葉です。実際の説教稿には「我已ニ世ニ勝テリ」とあります。この言葉は、イエスが弟子たちに向かって行った説教の最後の一文です。本当の正義は迫害を受けている自身にあるという意味で解釈される言葉です。新島がこの説教を行ったときはイエスに自身を置き換えて考えていたかもしれません。

同志社京田辺会堂光館ラウンジ展

私が今回この言葉を紹介したのは、この言館の隣にある光館で実施している資料展示と関係しています。2015年に言館と光館が完成しました。光館ではその設計当初から建物内部に新島襄関連資料の展示スペースが設けられることが決まっており、開館時から資料展示を実施することが決まっていた。そこで、同志社社史資料センターはキリスト教文化センターからの協力要請を受けて、資料展示に協力

しています。私が資料展示協力の担当者です。

この資料展示は、1年間の春学期と秋学期に合わせて各1回実施し、これを4年間で完結させる構成です。4年間で合計8回の資料展示を実施し、これを繰り返し実施していくのが光館ラウンジ展です。光館が開館した2015年4月に第1回の資料展示が始まりました。現在、2018年9月より区切りとなる第8回目の展示を行っています。その8回目の展示のタイトルが「新島襄の遺した言葉」です。私が今回のチャペル・アワーでお話をするようになった理由を察していただけたと思います。

新島襄の言葉の選出基準

新島襄が遺した言葉と聞けば、いくつか思いつく方もいらっしゃるかもしれません。たとえば、「諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ」という言葉があります。現在、新町キャンパスの臨光館と尋真館をつなぐ渡り廊下の外壁に刻まれています。この言葉は、新島襄が同志社創立十周年記念の演説時に、前年に退学させられた学生らのことを慮って発した言葉として、当時の聴衆の一人が記録しました。新島の人柄がよくわかる言葉ですが、本人の自筆の文字はありません。

また、「倜儻不羈」という言葉を聞いたことがある方もいらっしゃると思います。入学案内では同志社リベラリズムの原点として昨年まで継続して紹介されてきました。この言葉は「才気が優れ、独立心が旺盛で、常軌では律し難い」という意味で、新島襄の遺言の中に登場します。ただし、この遺言は新島が口述した内容を教え子の徳富猪一郎（蘇峰）が書き写しました。また、一定の年齢層の人には、新島が好きな言葉として司馬遼太郎がこの言葉を揮毫したことをご存知の方もいらっしゃると思います。しかし、新島の直筆は存在しません。

もう一つ事例を挙げるとすれば、“Go, go, go in peace! be strong, mysterious hand guide you!”という言葉があります。室町キャンパスにある寒梅館が建設される前には、大学会館（学生会館）がありました。その大ホールの緞帳にこの言葉が刺繍されていました。もう緞帳は存在しませんが、この言葉が刺繍された箇所だけ切り抜かれ、寒梅館ハーディーホールの座席後部の壁面に展示されています。ちなみに、この刺繍の文言は“Go, go, go in Peace. Be Strong. A mysterious Hand will guide you!”となっており、先ほど紹介した一文は森中章光編『新島先生片鱗』（洗心会 1941年）にあります。二文を比べると、基本的な意味は同一と考えられますが、表現がずいぶん異なります。これは、新島が直筆で残した文章がないこと、そして、新島がこの言葉を発したことを記した資料が存在しないため、文法や意味合いからさまたげに手を加えられたためと考えられます。

三つほど事例を挙げて、新島の直筆の資料がない言葉についてお話ししました。言葉とは、第三者が介在した時点で、第三者の意思などが介入します。そのため、言葉を発した人物の意図どおりの意味が現代に残されているか否かの判断は難しくなります。第三者が書き残した言葉があったとしても、本人の意思が筆致や文体、文章の構成に現れているかと言えば必ずしもそうとは言えません。こういうことを考慮して、第8回目のラウンジ展示でご覧いただく新島襄の言葉は、鉛筆やペン、墨による肉筆に現れた質感を感じ取っていただくことを重視し、直筆で新島が遺した言葉に限定しました。ただし、光館は紙資料の展示には不向きな場所であるため、基本的にはオリジナルの資料とほぼ同じサイズのレプリカを作成し、展示しています。また、新島の肉筆は点数が多いため、教育者とクリスチャンという、新島の二つの側

面を現す言葉を展示資料選択の大方針とし、併せてキリスト教文化センターが墨書で公開している「新島のことば」と「聖書のことば」と合致する言葉を選出しています。経済雑誌『プレジデント』に掲載された「新島襄のメッセージ」（全18回）も選考基準としました。

新島の教養や意志が反映される言葉

実際に展示資料を選出する中で気がついたことは、日本語や漢字の文言が目立つことです。周知のように、新島はおよそ10年間欧米で学びました。こうした経験があれば、英語で書き残された言葉も相当程度あると予想されがちですが、あまり多くはありません。むしろ、新島が少年期や青年期に学んだ中国古典に由来する言葉が、第三者に見せる、あるいは訴える言葉として残されています。そのうち、2点を紹介したいと思います。

1点は司馬遷の『史記』にある「李將軍列伝」の言葉、「桃李不言下自為徑」です。「桃李（とうり）、言わねども、下、自ら徑（こみち）を為す」と読みます。桃李とは果実のすももを指す言葉で、すももが生る木には自然と人が訪れ、道ができるという意味になります。この意味が転じて、魅力のある人物のもとには人が集まる、となります。新島がこの言葉をいつ揮毫したかは不明ですが、誰かに贈ることを意識して揮毫された書であることがその体裁から分かります。

もう1点は、唐代の人物である李百薬がまとめた『北斎書』第41巻「元景安」伝にある言葉です。新島が揮毫した書は「寧為玉碎恥瓦全」で、「寧（むし）ろ玉碎を為し、瓦全（がぜん）を恥ず」と読みます。一方、原文は「大丈夫寧可玉碎不能瓦全」とあり、「大丈夫（ますらお）、寧（むし）ろ玉碎すべく、瓦全する能（あた）わず」と読みます。文章のニュアンスから、新島が揮毫した書の方が「玉碎」という言葉を強調した調子にアレンジされていることが分かります。これらの書には「玉碎」と「瓦全」という対照的な言葉があります。「玉碎」と聞くと戦時下で使用されたイメージが先行しがちですが、ここでは玉のように完全なものが美しく砕けることを意味し、これが転じて名誉や忠義を重んじて潔く死ぬことを意味しています。

一方、「瓦全」とは瓦のように変化のない全き状態にいること、つまり、何もせずにいたずらに身の安全を保つことを意味します。原文では「玉碎」すべきであって「瓦全」することはできないとありますが、新島は「瓦全」を恥ずべきこととしています。帰国後、教育事業に邁進する際の覚悟が反映された言葉とも受け取ることができます。

ここでは二つの書を事例として紹介しました。これらはいずれも中国古典から引用された言葉ですが、新島の遺した言葉の多くが過去の古典籍や和歌などに依拠しています。言い換えれば、新島がオリジナルで作成した言葉は非常に少なく、一方で、1000年以上の時間差があったとしても、新島在世時にも普遍的な意味をもつ言葉が引用されています。新島の遺した言葉は、新島の行動規範や思想を知る上で大変興味深いものですが、同時に、新島が遺した言葉が現代に通じる内容なのか、という観点からも考えていただくことができます。新島が遺した言葉は本人の思想信条だけでなく、長年にわたり語り継がれてきた言葉の普遍的価値の一端も示しています。

このように新島の言葉を見ることで、人それぞれが固有の解釈をすることができると思います。ぜひ、新島の言葉をヒントにいろいろと考えをめぐらせてみてください。

ご静聴ありがとうございました。

2018年10月10日 京田辺水曜チャペル・アワー「奨励」記録

<HP では写真等を省略しております。詳細は冊子体の『チャペル・アワー奨励集302号』をご覧ください。>